

同期会便り

■中47・高1回 仲間と会話できる 嬉しさを難さ

嬉しさを難さ

あーあ、もはや名ばかりで実質が伴わない状態になり果て申し候。前19号で戦争末期の飯田中学・学校工場を回想し、学徒工員同期生だった高2回の皆さんと合同で「老兵は静かに消え去るのみ」の引退を覚悟した。にもかかわらず「われら47期は永遠なり、勝手な引退は許されぬぞ!」と何時も人をおだてるだけで何もしない扇動電話趣味の某君から冗談半分の叱り声が掛った。

おだてやお叱りに合わせる気持ちは毛頭ないが、まだ少々でも元気な生き残りがいるはずだと、暫くご無沙汰の幾人かに恐る恐る電話をかけ

てみた。飯田の代表酒井寛君はかつての明るく元気な応答が聞こえず、再度かけても留守。川崎の清水弘志君は仏像彫刻は集中力減退により停止だと、穏やかな話し声で親しく近況を伝えて呉れた。東京の藪(旧姓・武藤)明保君とは小学校も一緒の親密関係だから久しぶりの声交換が嬉しくて、お互い老衰の苦勞なんか忘れたよネと。

埼玉大宮の伊藤祐保君は「埼玉寮歌祭」の事務局をしており、紹介されて僕も常連になっていた。水川神社前の大きな料亭結婚式場を舞台に、古き良き時の旧制高等学校の風俗と寮歌に酩酊する楽しみが、コロナの野郎にやられた忍従の日々の悔しさよ。

令和5年夏、もうそろそ

ろ「埼玉寮歌祭」復活の吉報が聞かれるだろうとワクワクして伊藤君に電話したら、なんとまあガツカリ。「実行委員の老齢化により閉会のやむなきに至り云々」の挨拶だった。

旧制高校の貴重な文化遺産である寮歌祭をしっかりと守り継ぐ者は居なかったのかつ!と怒り狂つても今やもう後の祭りか。

気分転換して我ら47回生ミニミニ集会といえる写真をご覧いただく。場所は沖縄の植物園。向かって左から古生物学者の長谷川善和君、続いて風来坊の小生、世界野生ランの博士唐澤耕司君、伊那谷の教え子およそ1千人という英語教師三澤安治君。

4人が4人とも何とか元



気?で今日現在会話できるから嬉しく有難い。どんなに足腰痛くても温室植物管理は自分でという耕司君。今春もアフリカなど地球を飛び回る怪物長谷川君にはシャツポを脱ぎつつ賛辞を贈る。

(牧内雪彦/記)

■高6回

待ってたねの笑顔で同期会

高6期の活動の核、三水会は毎月欠くことなく続いている。飯田の四水会の衆も元気のようなだから、吾等の復活の勢いは上昇中ということであろう。この勢いに乗って、4月には4年ぶりに同期総会が開催された。前回は、平成最後の年だった。「コロナウイルスの収束が見られませんので秋に延期することとなりました、改めて日時のご案内をします」との通知後、やっと辿り着いた開催だった。ハーマニカ伴奏付きの2次会も『同期会歌集』と併せて準備されていた。

さて、参加者は26名、予想を上回った。八十路半ばで足止め、米寿の年になって、お互いに元気な笑顔が見られた。よかつたのである。女性陣からは、川手三千さんが万

障繰り合わせて出席。日下部俊彦君は宇治から遠路を、久保田陸海君はバスタから這う思いで来た。久保田清君はまだまだ診療を頑張っている。欠席通知に、ライフワークの出版準備中だ、あるいはロンドンに行っていると書いていた人もあった。皆、それぞれの米寿に合掌である。幹事はもとより参加者、開催に尽力してくださいました。有難うございました。

前号で予告した第15回「ふるさと巡り」は実現しなかった。企画の中心となるべき毛涯卓郎君が昨年暮れに他界していたのである。チャンスを選じたことを悔やんでも遅い。直近での物故者は丸山博司君、第13回の会津旅行には夫妻で参加、前回平成最後の同期会でも2次会に最後までお二人でお付き合いたいだった。今回は夫人の清美さんが



第6期同期会出席記念写真(全26名) = (前列右から) 福沢康人、木下昌和、佐々木満治、久保田陸海、久保敷秀男、藤本義久、日下部俊彦、丸山清美、川手三千。(中列右から) 筒井健雄、久保田清、中田淑美、林史欣、市瀬陽男、嶽野功行、福沢亀人、沢柳豊、鋤柄奏、森本哲夫。(後列右から) 奥村勝亮、下原喜好、清水邦人、平沢正道、水上寿英、熊谷直孝、田中正臣

名代出席で想いをつないでく
ださった。

次年度は佐々木満治君が代
表幹事、まだまだどうにかな
るだろう。(藤本義久/記)

■高9回 4年ぶりに再会!

飯田高松高等学校第9回生
の同期会は、分かり易いよう
にと「毎年5月の最後の週の
真ん中(水曜日)、13時から
市谷のアルカディアにて」と
決めてある。コロナの猛威の
ため2020年・21年・22年
と開けなかったが、2023
年3月に入ってコロナの勢力
がやや衰えたので、幹事団(桜
井・中川・三石)は顧問団(林
(友)・原(後)・岩口)と相
談し、思い切って4年ぶりに
断固開きましようという事にな
った。

この相談の過程で、我ら9
回生は既に80歳代の半ば、関

東地区などの同期生92名の全
員に開催の通知を出すのはい
かがなものか、健康上の理由
などでどうしても出席出来な
い人も居るのではないだろう
か、この際思い切って「以後
開催通知の要・不要」を尋ね
たらどうだろうかという事にな
った。

2023年4月、関東地区
を中心に全92名の同期生に往
復はがきを送られ、4月末ま
では返信が集まった。その
結果、5月31日の同期会には
13人が出席を希望した。同時
にその返信から、「従来通り
通知してほしい」人が29名、
連絡不要者が28名、30日の出
欠を明記するが来年以後の連
絡については明記しない人が
6名、返信なしの人21名、住
所不明で戻り2名、この4年
間のうちに亡くなった人6名
であった。以上の分布から来
年の2024年5月の開会通

知は「要通知者29+明記しな
い人6名」とすることになっ
た。

なおWHOテドロス事務局
長の「コロナ緊急事態終了宣
言」が出るのが5月5日、我
が国の「コロナ第5類宣言」
が5月8日、この両宣言が出
て日本中が安堵のため息をつ
くことになるが、我々の同期
会開催通知はこの両宣言の直
前であつて、もう少しこの両
宣言が早く出されたなら、同
期会出席の人がもう少し増え
た可能性があつたかもしれな
い。

さて5月30日の同期会は13
時から15時まで、13名の出席
である。くじ引きで座席番号
を決め、番号順にコロナ下で
の密閉・外出禁止生活、妻や
夫が施設や病床にある人、妻
を亡くした人の苦勞が切々と
語られた。

中間に中川君の尺八演奏

「惜別の歌」「アメージンググ
レース」を挟んで、料理を楽
しみ、再び順番に従って苦勞
話が語られたが、時間が2時
間と限られており、集合写真
を撮るのにも急がされた。来
年の元氣な再会を約して閉会
としたが、今回の反省点は、
時間が2時間では足りない、
少なくとも従来通り3時間は
ほしいということであつた。

(三石善吉/記)

■高10回 コロナ禍、

その後の十松会(有志の会)
2019年に開催した十松
会も世界中を震撼させた新型
コロナの影響を受けて202
3年の現在も開催できずの状
態が続いています。

このような厳しい中、オン
ライン懇談会が行われるよう
になりました。初めはなかな
か接続できず戸惑うことばか

りでしたが、月1度の懇談会
が待ち遠しく楽しみな会にな
りました。

まずは近況報告で始まりま
したが、体調の悪いことにつ
いての話題が多いのを割り引
いても画面で見る限り元氣そ
のものです。さすがオンライン
でしようか。参加者も岡山
の田中宣史さん、福岡の伊藤
明夫さん等々遠隔の地の方と
も近況を伝え合うことが出来
ました。それぞれの地で活躍
の様子何よりと思いました。

多い時には8名程画面を賑
わしていましたが、猛威を振
るっていたコロナも少し大人
しくなり始めたところからリア
ルな懇親会を開くことが出来
ないかということになりました。

オンライン懇談の十松会有
志のメンバーを中心に3月17
日、御徒町の吉池食堂を会場
にして12名が集まり、久々の



対面の食事会Ⅱ写真。本当に
皆さん楽しく、うれしそうな
顔^^)でした。4年ぶりの再
会、お互いが「老いた」こと
を実感しながら、話題は病氣
自慢(?)、日々楽しんでい
ること、同級生の消息等々時

間の過ぎるのがアツ
という間でした。御
多分にもれず話し足
らずということ。二
次会へと続き、密な
会となりました。

次に開かれるこの
会では、巷を賑わし
ているChatGPT
T等の生成AIが社
会をどのように変貌
させていくかを話題
にして、時代の先端
ならぬ後尾に追いつ
いていければと思っ
ます。

(松下浩司/記)

84歳の女性たち8名が

元気に歓談

5月19日(金)、コロナ禍
が少々収まったとの事で3年
半振りに稀松会を開きまし
た。高10回卒の女子の集まり
です。

出席者は8名、御徒町駅前
の9階のレストランでの昼食
会です。窓からはスカイツ
リーが見えて、素敵なおケ
ションでした。当然出席者
はどこか故障はあっても元氣
で、会話が弾みあつという間
の2時間半でした。

来年同じ時期、場所を再会
する事を約束して散会となり
ました。(高田黎子/記)

■高13回

月1回ズーム交流会開催

2019年に急逝された長
沼節夫君を偲ぶ会が同君の著
作集『ジャーナリストを生き
る』の出版記念(同期の平澤
春樹、菅沼知允両君が編集委
員として参加)も兼ねて、コ
ロナ禍が収まりかけた22年11
月19日に日本記者クラブで開
かれました。それを契機に
同期の間で恒常的に相互間の
交流の機会をつくったらどう

かという話が持ち上がりまして。
た。

小林邦彦君（名古屋在住）の提案によるズームによるオンライン交流会はその具体化です。12月21日に第1回を開催し、機器の扱い方を相互に支援して教え合いながら、月1回ペースでズーム交流会が続いています。当初6人で始まり、現在の参加者は10人に達しています。

現在も門戸開放中で新規の参加者は大歓迎です。高校卒業以来60年以上を経た再結集であるだけに、多様な人生・職業・経験等を背景に、その蓄積がにじみ出ている交流会です。近況報告を主体にすることが多いのですが、健康問題、認知症、庭の草花、短歌俳句、飯田など故郷情報、沖縄、さらに中国、インド、ウズベキスタンなど世界にわたる多様な情報交換の場となっ

ています。

ズーム会での話題を進展させ、メールを通じる交流も極めて活発です。知識の深化・拡大だけでなく、相互の励ましになる実利的情報の交換ともなります。

話の展開は臨機応変で流動的ですが、決して過去を懐かしむだけにとどまらない未来志向で創造的な萌芽が常にみられます。また今後の交流の中で飯田地域の発展につながるようなアイデアとか構想が生まれる可能性も期待されます。そして何よりも、80代に入った参加者が各自の今後の人生をより豊かなものにするうえで、このズーム交流会の役割は小さくないと思います。



飯田高校高松祭のフォークダンスで生徒会執行委員の長沼君の背中に飛び乗った同会長の小林邦彦君。左は同副会長の市瀬多章君 = 1960（昭和35）年9月

入会希望者は小林邦彦君のメール・アドレスにご連絡ください。

kobayashikunhiko09@gmail.com
(清水 学/記)

■高14回

再会待ち切れず

ミニ同期会開催

喜寿記念と卒60周年記念の祝宴を開催しようと、飯田在住の幹事団がその都度、検討

してくれたが、コロナ禍でついに実現できなかった。お練りに合わせての企画がなくなくなった時は実に残念に思った。在京の仲間の多くは、これで最後(?)の帰飯の機会を失ったとも言えるだろう。少なくとも私はそのうちの一人である。

今年に入って、再会を待ち切れない面子で(ワクチン接種済を条件に)ミニ同期会を開いた。

5月13日、神田明神の神輿宮入(神田祭)を楽しむために16名が集まった。同地区に在住の松沢勇氏(神田妻恋神社総代)が世話を焼いて下さり実現した。神田祭の賑わいを直に堪能できた。宮入を観た後で、彼の馴染のちゃんこ鍋屋で大いに盛り上がった。

7月19日、小江戸散策を想って川越市に10名が集まった。世話役は藤田博子、山口



中央の法被次
が松沢氏

武士両氏である。しかし、余りの暑さに恐れをなして、最初から藤田氏の馴染の地下のスナックに潜り込んだ。そこで各自の近況報告の後、空調の効いた中でカラオケを長々と楽しんだ。小江戸散策は次



前列中央が藤田氏、
後列中央が山口氏

回の楽しみとする。
なお、在京37会の全会員での同期会はまだ実現できていない。そろそろ同期の仲間顔を直に見て、語り合いたいものである。

(中島 信/記)

■高15回

いちご会やらまいか!

33年間継続・開催してきた「東地区いちご会」はコロナ禍の状況が極めて悪化する前の2021年2月開催以後、中止になってしまいました。来春、会合が許されるような状況になれば、是非再開したいものです。

年齢満80歳にもなり、お顔を见られなくなりお顔を见られなくなつた方達もいる一方で、身体的問題も生じ、少々、出歩くのが面倒になってきております。しかしながら、この歳だからこそ、同期生達と共に語り、思い出話に華を咲かせることで、喜びを共にしたいものです。



平成24年2月4日 於：新宿サンパーク

来春早々、幹事から「東地区いちご会」の開催について案内が、お手元に届くと思えます。その際は、身体に鞭打って、奮ってご参加いただけますよう、心楽しみにご予定下さい。開催となれば2月3日(土)、於：新宿サンパー

クです。最後に2012年2月の写真をご覧ください。

(佐々木康夫／記)

■高17回

喜寿の祝い

高17回生にとって、母校を昭和40年3月卒業以来半世紀以上が経過、今年は多くの者が喜寿を迎える年となります。

コロナ騒ぎで、集まる機会の少なかった昨今ということもあり、「中央線沿線の仲間」を中心に、喜寿の祝いをやるうという機運が盛り上がり、本年10月17日(火)にアルカディア市ヶ谷において開催がままりました。

開催計画にあたりましては、萩元久志君(E組)が発起人代表として、また、木村稔君(A組)にはアドレス整備を中心に、また定期的に各クラス幹事を含めて打ち合わ

せをするなど準備を進めていきます。

開催案内の発送にあたっては、在京関係者を中心に原則Eメールによることとし、約80名が登録されており、また、メールでの出欠の連絡と同時に、自由にメッセージを書いてもらい、共有情報として当日の話題の種となることを期待しております。

また、アルカディアでの集まりに先立ち、変貌著しい渋谷界隈の街並みを散策するコースも計画されています。

当日は、多くの仲間の参加により、懐かしい思い出、また今後の人生展望などを語り合い楽しい喜寿の祝いとなることでしょう。

(協坂英文／記)

■高22回

3年越しの卒後50周年記念

コロナ禍で3年延期になっ

ていましたが、去る4月16日(日)14時から飯田市のビークラスマツカワにおいて、総勢130人余りの参加者による高22回生の総会及び懇親会が行われました。Ⅱ写真。前後に併設行事として、創造館での同期展、及びゴルフコンペやリニア駅工事を含む小旅行も開催されました。来賓として出席された駒瀬隆校長の「50年前と比べて学生数が半減している」と言う話をお聞きしビックリしました。

それにしても校長はお若いですね。50年前私達は当時の校長が年寄りに見えました。お酒を絶っているはずの前沢元・二二会々長が差し入れの一升瓶を抱えて、「懇親会が終わったぜえ」と言うホッとした顔をして会場の外に立っている姿が印象的でした。

私自身は、耳が殆ど聞こえず、また杖を突きながらの歩



行であるため、懇親会参加を躊躇しましたが、クラスの実行委員などの後押しもあり思い切って出席しました。難聴のために持参した携帯電話の日本語認識アプリが、特に周りのざわめきが少ない時には威力を発揮してくれました。10年後にはこの様なツールがより発達しており、私の様な障がい者にとって懇親会はバリアが低くなるだろうと思えました。また今後は高速ネットワークでのリモート懇親会開催も期待したいです。

懇親会翌日には創造館の展示会にも寄りました。そこで何人かの友人にも再会出来ました。帯同した私の妻も「これは趣味でやっていると言うよりプロの仕事だ」と驚いていました。

これを機会に、連絡不義理の友人の連絡先も沢山知事が出来ました。この様な機会

を作って頂いた実行委員の皆様のご尽力に感謝致します。

最後に、実行委員の皆さんの感想を追記します。

——コロナ禍で2度の延期を余儀なくされましたが、準備、運営に力を注いでくれた仲間たちのおかげでようやく

開催することができました。同期展では、それぞれの分野で、芸術文化活動に取り組んでいる同年生が大勢いることに喜びを感じます。周年事業の実行委員会発足から4年、やはり長かったなと思います。ただ、必ず成しとげたい

と思っていました。実際の場面になってみると、喜びとか嬉しさというよりホッとしたというのが実感でした。また、今回の記念事業協賛金に協力してくれた仲間が166人。卒業後音信のなかった仲間も何人か居て、同期生の結びつきが強いことも感じられ嬉しかったです。天気に恵まれたことも幸いしました。

(大時和仁/記)

■高23回 みんな元気に

6月3日、表参道駅近くのF組村松孝尚君の店で「ニイサンカイ」が4年ぶりに開かれました。仲間たちと顔を逢わせるたびに笑顔がこぼれる。コロナの長い自粛期間が終わって、みんな嬉しそうだ。「20名も集まれば」と思っていたが、28人も来てくれました。現役で頑張っている者も



北川原温君制作の「飯田高等学校正門」を見学

いるが、年金生活者でそれぞれの人生を歩いている者が多い。

そんな中で、令和3年に弊田隆司君、令和5年4月には福澤勝君が天国に行ってしまった。さらに「ニイサンカイ」開催後の8月には塩澤明君が続いた。

訃報を知らなかった者もいて、相当ショックだったようだ。福澤君については癌の進行を抑える薬を飲んでいるとは聞いていたが残念です。これも続くとして「人生100年」を真剣に考えさせられる。古希をすでに越えたがこの先どうなっていくんだろうかと。

「ニイサンカイ」は、仲間との親睦をはかるためにやってきたが、これからは天国に行ってしまった仲間の供養もしなければならなくなるだろう。供養といっても、仲間と思い出を話すだけでもいい供

養になると思う。

話はかわって「ニイサンカイ」では親睦とポケ防止のためスマホを利用した、ライングループを作ることになりました。「友達」としてこのグループに「招待」して、今現在29名が参加中です。

過去の「ニイサンカイ」の写真や、飯田でおこなわれた同年会の様子も見ることができません。何よりも「思っていること」を自由にトーク画面で話せる（書き込める）し、それに対する返信もトーク画面に書き込めるんです。他にもいろいろな機能がつ

いているから、ポケ防止にはうってつけだと思います。来年の「ニイサンカイ」の案内もこのライングループを使います。それではみなさんお元気で又来年会いましょう。

（原 泰／記）



歓びと、笑顔に満たされるひととき



アルカディア市ヶ谷

SHI 私 学 会 館 AN

<https://www.arcadia-jp.org>

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25

TEL 03-6685-0540 (会議・宴会予約係直通)

原稿を大募集!!

テーマは自由。詩歌も歓迎。「あの人にインタビューしてみて」といった情報も待っています。応募・情報提供・お問い合わせは『稲穂』編集委員会まで。

メール：zaikyoiida.edit@gmail.com

FAX：03・5341・4399